



松山 美和 先生

略歴

1989年 九州大学歯学部卒業
1993年 九州大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
1993年 九州大学歯学部第二補綴学講座 助手
2003年 日本補綴歯科学会 専門医
2004年 日本補綴歯科学会 指導医
2007年 日本顎顔面補綴学会 認定医
2008年 日本老年歯科医学会 専門医, 指導医
2009年 九州大学病院口腔機能修復科（義歯補綴科）講師
2009年 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士
2011年～ 徳島大学大学院 教授（口腔機能管理学分野）

歯科衛生士による糖尿病予防指導の展開

徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔保健学系 口腔機能管理学分野
松山 美和

日本歯周病学会編「糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン改訂第2版」に示されている通り、歯周病と糖尿病の関連性について多くが報告されている。医療における多職種連携・協働が進められる中、歯周病の予防・治療・管理に携わる歯科衛生士もまた、糖尿病の予防を担う重要な医療職である。公益社団法人日本歯科衛生士会は「糖尿病予防指導認定歯科衛生士」養成の構想を練り、徳島大学歯学部は同会の依頼を受けて認定セミナーの具体案を企画し、2016年秋にはじめて糖尿病予防指導認定歯科衛生士セミナーを、徳島大学歯学部および社会医療法人川島会川島透析クリニックにて開催した。本講演ではこのセミナーの概要と内容の一部を紹介し、『歯科衛生士による糖尿病予防指導』の意義と指導のポイントを考察したい。

セミナーの一般目標は、糖尿病予防の口腔保健指導および管理にかかる専門的な知識・技能の習得に資する研修を実施し、地域社会に貢献できる医学的・歯学的知識と口腔保健学的技能を有する歯科衛生士を養成することであり、以下の6つの行動目標を設定した：①糖尿病に関する基礎知識を学ぶ、②糖尿病臨床の実態を理解する、③糖尿病と歯周病の関連性を理解する、④糖尿病予防の必要性を理解する、⑤糖尿病予防の問題点を考察する、⑥糖尿病予防の口腔保健指導に関する技能を学ぶ。業務歴3年以上の別に定めたコースを修了した歯科衛生士58名が受講した。おもな所属は行政、教育機関、病院と診療所であった。

セミナーは2週末4日間で、グループワーク（1グループ5、6人）、講義、討論と口腔保健指導プラン作成の演習を行い、人工透析専門クリニックを見学し、最終日には実習として『健口フェア』の一般参加者に対して口腔保健指導を行った。糖尿病療法専門の医師、看護師、管理栄養士や作業療法士、歯周病専門の歯科医師や歯科衛生士に講義を担当いただき、エビデンスに基づいた内容と最新情報を学習するために「糖尿病ガイド2016-2017（日本糖尿病学会編・著、文英堂、2016）」、前述の「糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン改訂第2版2014（医歯薬出版、2015）」とオリジナル・テキストを教材とした。

グループワークや演習・実習の結果は以下のようにまとめられた。歯科衛生士が糖尿病予防として個別の口腔保健指導を行う場合、身長、体重、BMI、労作や基礎疾患などの基本情報と口腔状態の評価に加え、血圧、血糖値やHbA1cなどのデータ、喫煙・飲酒などの嗜好、食品嗜好・食行動や運動習慣などについても情報収集し評価する必要がある。指導内容は口腔関連の項目だけでなく、食事や栄養指導、運動指導も加えたほうがよい。指導対象者の気質を知る場合は、それに応じた指導を行うと効果的である。個別指導の対象者は中高年者が多いが、青年者対象の集団指導も大切だと考える。

昨今、新聞にも糖尿病予防としての歯周病治療・管理の重要性が掲載されている。歯科衛生士がその専門性をもって糖尿病予防指導に取組み始めることを、社会は熱望している。